

農林技術研究所だより

最新研究紹介



静岡県農林技術研究所 野菜科
井狩 徹

イチゴ新品種「きらび香」の高設栽培未分化定植技術



1 はじめに

本県のイチゴは、栽培面積が312ヘクタール、産出額110億円(平成26年)を誇り、産出額の最も多い野菜となっています。

イチゴ新品種「きらび香」は、平成26年8月に品種登録出願し、平成27年1月に出願公表されました。早生性で、連続出蓄性が強く、また「紅ほっぺ」と同等の収量性があり、食味、果実の硬さ、光沢、大果性に優れています。

「きらび香」は育種選抜の過程で、未分化定植栽培に対応できるか検討を行ってきました。その結果、育苗が大幅に省力でき、定植及び収穫時期をずらすことでの労力分散ができる



写真1 鶏冠果

2 未分化定植について

イチゴ栽培においては、通常ランナーから発生した小苗を育苗し、花芽分化を確認してから定植します。イチゴの花芽分化は、低温、短日、低窒素によって誘導されることから、様々な育苗方法が開発されています。

未分化定植とは、花芽分化していない苗を高設栽培槽に定植し、本ほで花芽分化をさせる栽培方法です。

「紅ほっぺ」でも未分化定植技術の検討を行いました。写真1(写真1)、花こう枝の帯状化、多芽株(写真



写真2 花こう枝の帯状化

「未分化定植技術」を開発したので紹介します。

3 未分化定植方法

(1) 培地の除塩

定植前に、培地の除塩を行い肥料分が少なくなるようにします。除塩方法はイチゴ株を除去した後、培地にかん水を行います。あるいは前作の終了時に7〜10日間程度液肥を与えず



写真3 多芽株

水のみをかん水することで、培地中の肥料分がイチゴに吸収され排液中の養液濃度を下げることができ、培地はヤシがらの他、ロックウール

	8月			9月			11月			12月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
未分化定植												
普通ポット育苗												

図1 「きらび香」の定植・収穫時期

でも有効で、硝酸イオン濃度は十日後には5〜10mg/L程度まで低下します。ECも原水程度に低下します。ただし除塩中の果実は食味の低下が起る可能性があるため出荷を終了してから除塩処理を行うようにします。

排液中の硝酸イオン濃度やECを測って肥料分が減少したことを確認して除塩は終了です。

(2) 肥培管理

7月下旬の切り離し後すぐに定植を行い、原水+0.1ds/m(研究所では0.4ds/m)の低濃度の養液を施用するようにします。施用養液濃度が高い(原水+0.3ds/m)と花芽分化が遅れ、頂花房開花日、初収日が遅くなります。また、養液濃度を変動させ原水のみを与える窒素中断を行うと成育が抑制され、花芽分化もやや遅れ、3月末までの収量も減少します。また12月上旬のB階級の発生が多くなります。

定植後から花芽分化期までは暑い時期でもあり、かん水量はやや多めに排水率30〜50%をめどに行います。花芽分化確認後は、通常の養液管理に戻します。成育が旺盛な場合があるので、かん水量が足りなくならないよう排水率に注意してください。

(3) 栽培管理

未分化定植では、ポット育苗の苗に比べ、より花芽分化時期の草丈、葉面積が大きく、成育が旺盛になりやす

いため頂花房第一果(トップ果)には乱形果が多く発生します。

「きらび香」は普通ポット栽培でも、花芽分化初期で定植を行うと乱形果が発生しますが、未分化定植ではそれより発生が多くなる傾向があります。

9月上旬まで強い摘葉を行い、葉枚数を2枚で栽培すると乱形果の発生をやや軽減することができます。このときは古い葉から順に摘葉します。

花芽分化を速やかに9月下旬に行うためには、50%程度の遮光を花芽分化時期まで行い、ハウス内をなるべく涼しくします。外部遮光の方が内部遮光より効果があり、花芽分化後はずみやかに外すようにします。遮光を外すのが遅くなると株が徒長します。

通常のポット栽培では、多少心止まり株が発生しますが、未分化定植ではほとんど発生しません。

(4) まとめ

未分化定植では、8月上旬から定植を行います。慣行栽培では、夏季を通してベットの消毒ができますが、未分化定植では早めにベットの消毒を行う必要があります。

炭疽病の発生は減少しますが、その他の病気に関しては慣行栽培と発生があまり変わりませんので注意が必要です。害虫の発生も同等と考えられます。天敵利用も行い、計画的な薬

剤散布の実施に努めるようにしてください。

4 おわりに

「きらび香」は、早生性や高品質果実が注目されている品種ですが、選抜する過程で、省力的な栽培に適應し、栽培面積の拡大が可能という特徴も有しています。未分化定植技術によりイチゴ生産拡大が期待されます。

連絡先 磐田市富丘678-1
静岡県農林技術研究所 野菜科
agri-yasai@pref.shizuoka.lg.jp

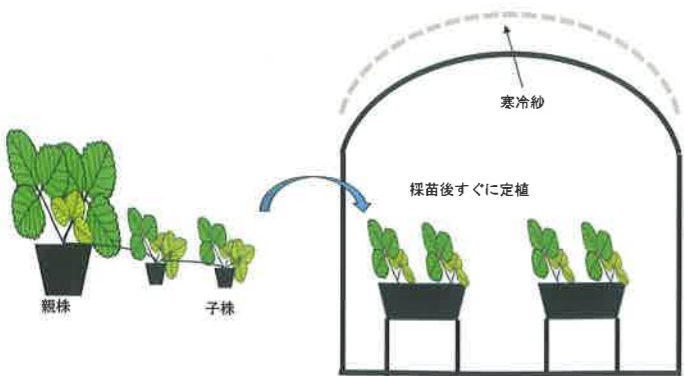


図2 未分化定植の模式図